鷹南学園三鷹市立中原小学校　令和８年度　【１年生】　授業改善推進プラン

	R7年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
国語		カタカナや漢字を書く際に「とめ・はね・はらい」を意識して書く児童が多い。しかし、マス目の「どの部屋から書き始めて書き終わるか」という文字の配置・筆順への意識がまだ低い。また、言葉を手がかりにして、文章やお話の具体的な場面の様子や登場人物の行動を想像して捉えることができる児童が少ない。	ひらがな・カタカナ・漢字の指導において、4つの部屋（マス目の区画）を意識して正しく整った文字を書くよう視覚的に指導する。また、文章の読解においては、児童の生活経験と結び付けたり、動作化を取り入れたりして場面の様子を実感し、具体物や挿絵を活用し、内容が直感的に理解しやすいよう工夫する。
算数		加法や減法の基礎的計算に関心をもっているが、1つの数を他の数の和や差として捉えるなど、数を他の数と関連付けて多面的に見る力が不十分な児童が一定数見られる。また、加法・減法が用いられる具体的な場面を正しく式に表したり、逆に式からどのような場面かを読み取ったりすることに苦手意識をもつ児童がいる。	ブロック等の半具体物や端末・プロジェクターの視覚教材を活用し、一人ひとりが具体的操作を通して考える時間を確保する。教室や身近な生活から数量を見付け、言葉や絵・図で表してから式と結び付ける活動を取り入れる。実生活の場面と加減の式を往還し、数量の関係を実感として捉えられるようにする。
社会			
理科			
音楽		歌に合わせて体を動かしたり、みんなでリズムを合わせたりすることを楽しんでおり、音楽活動への親しみや意欲は高い。また、鍵盤ハーモニカ自体には慣れ親しんでいるものの、タンギングを行って音を切ることや、正しい指使い（運指）で無理なく柔らかい音色で演奏することができる児童がまだ少ない。	曲想に合った体の動きに結び付けるため、リズム打ちや音の高低を使った音楽体操を取り入れ、体全体で音楽を感じる。鍵盤ハーモニカでは、階名唱や指の動きのみの練習などスモールステップで段階的に指導を進める。個々の小さな達成感を積み重ねながら、正しい奏法を確実に身に付けられるようにする。
家庭科			
図画工作		多くの児童が教材や材料に強い興味をもち、自分なりのイメージを広げて楽しそうに作り出すことができている。一方で、対象を造形的な視点（色や形、組み合わせなど）で捉えることが苦手な児童が一定数いる。そのため、途中でつまずくと発想が止まり、作品に対して粘り強く工夫して取り組む力が弱い傾向が見られる。	導入の全体指導で多様な作例やアイデアを提示し、イメージをもつことが苦手な児童も参考にできるよう発想を広げておく。制作途中には教師が児童の作品のよさを全体に紹介し、友達の工夫を参考にしてよいことを伝える。個別に対話的な声かけを行い、自らの作品をより良くしようとする粘り強さを引き出す。
生活		それぞれの体験活動に意欲的に取り組み、活動を通して自然の変化や関わる人々の思いに素直に気付くことができている。しかし、その気付きから一歩踏み出し、「さらに確かめよう」「もっと工夫してみよう」と自ら教材や対象に働きかけたり、追究を深めたりしようとする主体的な姿勢をもつ児童はまだ少ない。	「見付ける・比べる・たとえる」などの多様な学習活動を意図的に仕組むことで、児童の気付きの質を深めていく。活動中の児童の発言やつぶやき、振り返りを丁寧に拾い上げ、児童の思いや願いが次の活動に反映できる授業づくりを行う。児童自らが教材や身の回りの対象に主体的に働きかける姿を引き出す。
体育		ほとんどの児童が体を動かす運動遊びに意欲的で、楽しんで取り組んでいる。しかし、自分の体を腕で支える、鉄棒等にぶら下がる、懸垂移行をする、逆さの姿勢をとるなど、多様な運動の基礎となる体力が不足している児童が多い。また、体の動かし方のコツがつかめず、動きに苦手意識をもつ児童も見られる。	友達や教師の動きを模倣したり、ICT機器の映像を見たりして「これならできそう」「やってみたい」と思える視覚的な工夫を行う。チャレンジカードを活用して意欲を高め、授業内だけでなく休み時間等にも楽しみながら体力向上に取り組めるようにする。易しい場の工夫により、できた達成感を味わう。
外国語			
道徳		相手の気持ちを考えることや決まりを守ることの大切さについて、話し合ったり考えたりすることはできるが、実生活において実践力として身に付いていないことが多い。また、話し合いでは自分の意見を言って終わりになってしまい、友達の意見を聞いて自分との共通点や違いを比べようとする児童はまだ少ない。	身近な約束や決まり、公共物を取り上げ、みんなが安心して過ごすために決まりがあることを理解し、守ろうとする意識を高める。自分の考えをもった後、周りの友達と考えを交流する場面を位置付ける。児童の発言をつなぎ、「友達の意見を聞いてどう思ったか」を意識し、児童同士が対話できる授業を展開する。